

牛橋公園再オープン記念式典 ～一冊の会記念植樹・楽天イーグルス野球塾～

「フルーツの山元町」といわれ、美味しいリンゴやイチゴが味わえる宮城県亶理郡山元町にて「牛橋公園再オープン」の記念式が晴れやかに開催されました。

◆牛橋公園再オープン記念式／記念植樹

7月5日、山元町教育委員会主催、一冊の会、(株)楽天野球団後援により、宮城県山元町の牛橋公園再オープン記念式並びに、一冊の会による記念植樹式と楽天野球団による野球塾が催されました。公園内にある大きな野球場は、楽天イーグルスの県内2番目のサポート球場となった4カ月後、東日本大震災の高さ4.3mの津波に襲われ、全壊。震災と津波の復興の為に大変苦勞された齋藤俊夫町長が再選されて間もなく開かれた今回の再オープン記念式。一冊の会は、繁栄の桐の木・プロスペアローニアの記念樹贈呈という、更なる復興再生に相応しい希望溢れる会でした。最初に、齋藤俊夫町長から『持続可能な復興』の一步がこの牛橋公園の再オープン。まだまだ完全ではないが、着実に進んでいる復興・再生に向けて、今後も精一杯取り組んでいく」という熱いメッセージがありました。続いて、山本町議会・議長の阿部均様、山元町体育協会会長の後藤正幸様、(株)楽天野球団取締役副社長の池田敦司様、レソト王国全権大使のリチャド・ラモエレツィ大使、一冊の会最高顧問の佐藤啓太郎大使が次々とお祝いの挨拶をされました。着実に復興を歩んでいる喜び、初回オープン時に何もしないうちに津波にのまれた無念、再オープンへの感無量の思いなど、お一人おひとりが様々な思いを寄せられました。レソト大使より、「これまで我が国は一冊の会を筆頭に日本から多くの支援をもらってきた。今度は、日本にお返しをする番だ」との、心暖まるお言葉をいただきました。約100人のきらきら笑顔の野球少年・少女達に激励のメッセージを送られたのは佐藤啓太郎大使。「君たちに会えた事を嬉しく思う。将来、野球のチャンピオンになるか？医者になって人を助けるか？地元を救う勇士になるのか？未来を背負って立つのは君たちだよ。私はいつもアフリカの子供達に『立ち向かう勇気』を伝えている。再生は、新しい創造をもたらす。皆さんも未来に向かって勇気を持って進んでほしい。立派な人になるよう心がけてください。」とお言葉に、みんなの心が奮い立ちました。この山元町から世界を担う人材が生まれたという吉報が届く日を楽しみに待っている。との大いなるエールに子どもたちの笑顔も一瞬緊張気味。



一冊の会による記念品の贈呈では、真心のこもった品をレソト大使手ずから齋藤町長にお渡しになりました。一冊の会からは、鳳凰の日本画(画・平間理事)と軟式野球のボール、Tシャツを贈呈。鳳凰は桐の若木に留まる鳥であり、甦り・復興再生のシンボルでもあります。牛橋公園の再オープンと記念植樹(繁栄の桐)にちなんだ素晴らしい作品です。初めての出会いから信頼が生まれ、心のオアシスへと拡がっていく絆…。そして、いよいよ記念植樹へ……山元町のみなさんとリチャド大使、佐藤大使、大槻会長で合計3本の若木を植樹しました。繁栄を思わせる若々しい緑色の葉は心を和ませ、5年で大木となる成長の速さは被災地の皆さんに勇気と希望を運んでくれることでしょう。一冊の会のプロスペアローニアは未来へと向かって大きく・高く成長を続けていきます。今日植樹したプロスペアローニアも、子ども達を見守りながら大きく育っていくことでしょう。

一冊の会による記念品の贈呈では、真心のこもった品をレソト大使手ずから齋藤町長にお渡しになりました。一冊の会からは、鳳凰の日本画(画・平間理事)と軟式野球のボール、Tシャツを贈呈。鳳凰は桐の若木に留まる鳥であり、甦り・復興再生のシンボルでもあります。牛橋公園の再オープンと記念植樹(繁栄の桐)にちなんだ素晴らしい作品です。初めての出会いから信頼が生まれ、心のオアシスへと拡がっていく絆…。そして、いよいよ記念植樹へ……山元町のみなさんとリチャド大使、佐藤大使、大槻会長で合計3本の若木を植樹しました。繁栄を思わせる若々しい緑色の葉は心を和ませ、5年で大木となる成長の速さは被災地の皆さんに勇気と希望を運んでくれることでしょう。一冊の会のプロスペアローニアは未来へと向かって大きく・高く成長を続けていきます。今日植樹したプロスペアローニアも、子ども達を見守りながら大きく育っていくことでしょう。

そして、いよいよ記念植樹へ……山元町のみなさんとリチャド大使、佐藤大使、大槻会長で合計3本の若木を植樹しました。繁栄を思わせる若々しい緑色の葉は心を和ませ、5年で大木となる成長の速さは被災地の皆さんに勇気と希望を運んでくれることでしょう。一冊の会のプロスペアローニアは未来へと向かって大きく・高く成長を続けていきます。今日植樹したプロスペアローニアも、子ども達を見守りながら大きく育っていくことでしょう。

◆七夕～素敵なサプライズ

植樹記念式に先立ち、大槻会長により素敵なサプライズが御座いました。「日本では7月7日は七夕のお祝いをしております」と大槻会長。七夕物語りをレソト大使ご夫妻に紹介をし、“笹の葉さらさら～”と会長を先頭に一冊の会のメンバーで七夕の詩を歌い大使夫妻に贈りました。会場全体が和んだその時でした、大槻会長が突如笹を取り出したのです。その笹には短冊や折り紙で作った色とりどりの和飾り、装飾が枝にしっかりとつけられておりました。大使夫妻もこのサプライズに心から喜んで下さり、なんとお礼にレソトの歌を披露して下さいました。「この大地、この青い空の下、私達はいつも共にいる、共に生き続けよう」という素晴らしいメッセージを込めた詞と大使夫妻の澄み渡った綺麗な歌声に心より感動致しました。♪♪

実は7月7日はマモサ・ラモエツィ女史、つまりリチャド大使夫人がレソト王国一等書記官としての職を全うされ本国へ帰国なされる日とのこと。マモサ女史は「本国に戻った後、今度はリチャド大使の奥様としてすぐにこの日本に戻ってきます、そして一冊の会と共に更に精力的に活動して行きたい」と述べられ、一同、マモサ夫人再来日の嬉しいニュースを聞き、大喜びの拍手が湧き起こりました。

◆被災地を巡って～相馬、仮設住宅訪問

式典後、佐藤大使夫妻と大槻会長をはじめ一部のメンバーはその足で相馬市役所を訪れました。休日にも関わらず秘書課の阿部勝弘課長補佐のご案内で被災地を巡りました。一冊の会が贈呈した【雪香灯】がその光を絶やすことなく被災者を温かく包んでいる相馬市への訪問は佐藤大使夫妻の願いでした。訪れた仮設住宅では、国連ニューヨーク本部にて震災状況、被災状況を世界へと熱く語った阿部洋子さんの仮設住宅を訪問しました。佐藤大使夫妻、阿部さん夫妻でほぼ占めてしまう



ほどの4畳半の部屋。その壁には大きな、破れかけの消防団のハッピーが威風堂々と飾られていました。震災直後消防団としてその任務を全うし最後の瞬間まで住民に避難を呼びかけ津波で亡くなった息子さんが身につけていたというものです。阿部夫妻から震災当時の様子、復興状況等を聞き胸が痛くなり、被災しても立ち上がる被災者の負けじ魂の根性と強い精神、お互いを励まし合う絆に‘心の復興’に感謝。佐藤夫妻も阿部夫妻も心温まる交流に胸が熱く励ましの楔（くさび）が一段と深くなったひとこまでした。阿部さんからは、避難所の片隅のプランターで育てている新鮮な大きなきゅうりとナス等の贈り物に一同心より感謝致しました。

七夕の笹は葉がさらさらと風により合わさり合い鳴る音が天上からご先祖様の霊を呼ぶとされている事から、神聖な植物だと言われています。2011年3月11日、3年半前のあの日この東北の地で亡くなった何千もの魂が天上から今必死に生きている東北の方々を見つめ、見守っていることでしょうか。震災に二度と負けない街作り、一日も早い物質的・精神的復興、更に今後の日本と世界を背負っていく子どもの輝かしい未来を心から願わずにはいられません。しかし願うだけでは復興も再生も叶うはずもなく、大切なのは「勇気」。一步を進める勇気をもって、一人ひとりが力を出し合い、行動することで前に踏み出すことができるのではないのでしょうか。震災によって亡くなった尊い多くの魂が安らかに眠れるように、私達も一冊の会の一員として被災地への持続可能な支援を続けて行くことをこの青く遠くまで澄み渡る空に、青々と輝く母なる大地に誓います。

「この大地、この空の下、いつも一緒、私達は共に生き続ける」。。。。

文責：村岡清佳、瀧川紗智子